

2017年度 第2四半期決算説明会  
主な質疑応答

Q: 通期の業績予想は変更しないが、セグメント間で増減を行ったとのことだが、その内容を教えて欲しい。

A: 上期の実績を考慮し、売上については、好調なイメージングソリューションに200億円増額し、上期未達だったドキュメントソリューションで200億円を減額した。インフォメーションソリューションでは、和光純薬の売上の中で、培地の培養部分を化成品から再生医療に組み替えを行った。利益についてはドキュメントソリューションの未達部分(-120億円)を、デジカメが好調なイメージソリューション(+60億円)とメディカルシステムが好調なインフォメーションソリューション(+50億円)でカバーする。

Q: ドキュメント事業で貸倒引当金を追加計上したということだが、その背景と金額規模を教えて欲しい。

A: 富士フイルムホールディングスとして進めているガバナンスの強化の一環として、富士ゼロックス及び関連会社の売掛債権について一つひとつ再評価し、会計士と相談しながら保守的に見直した結果、金額規模として約60億円を引当てることになった。

Q: チェキ、デジカメの好調は継続しているのか？

A: 通期で好調を継続可能。チェキの上期の台数は300万台、年間750万台に向けて順調に進捗している。デジカメも好調で1Q、2Qの売上が対前年40%伸びている。台数を追っているわけではないが、期初90万台/年の出荷を予定していたが、100万台/年に変更した。利益面でも昨年に比べ高価格帯が売れ、売上・利益に貢献した。

Q: ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング(J-TEC)について、Jaceが好調とのことだが今後の見通しは？

A: J-TECは、日本で初めて再生医療製品の承認を受けるなど技術力のある会社である。これまでR&D費投資が先行し赤字が続いたが、昨年黒字化した。経営基盤も整い、これからは主力製品のJaceとJackを中心に拡販できるフェーズになってきた。今後楽しい会社である。

以上